



## #33 Dealing with a complaint from a neighbor

Neighbor:

あの一、すみません。ちょっといいですか。

Student:

はい。

Neighbor:

このペットボトル、お宅<sup>たく</sup>が出<sup>だ</sup>したごみじゃない？

Student:

どちらに落<sup>お</sup>ちてましたか。

Neighbor:

うちの前<sup>まえ</sup>の道路<sup>どうろ</sup>よ。最近<sup>さいきん</sup>、うちの周<sup>まわ</sup>りにばい捨て<sup>す</sup>が<sup>ふ</sup>増えたよう  
な気<sup>き</sup>もするのよね。

Student:

私<sup>わたし</sup>たちが<sup>だ</sup>出したごみではないと思<sup>おも</sup>いますが...。ごみの処理<sup>しり</sup>は、  
十分<sup>じゅうぶん</sup>気<sup>き</sup>をつけておりますので。

Neighbor:

そう？

Subordinate:

すみません。あ、それ、僕<sup>ぼく</sup>が飲<sup>の</sup>み終<sup>お</sup>えたペットボトルです。風<sup>かぜ</sup>  
で飛<sup>と</sup>ばされてしまったようです。

Neighbor:

ほらね、もう、気<sup>き</sup>をつけてくださいね。

Student:

ご迷惑<sup>めいわく</sup>をおかけして申<sup>もう</sup>し訳<sup>わけ</sup>ありません。今後<sup>こんご</sup>、清掃<sup>せいそう</sup>のルールを  
徹<sup>て</sup>底<sup>てい</sup>させます。

Neighbor:

じゃ、よろしくお願<sup>ねが</sup>いします。